2011/11/30

一般財団法人住総研
Housing Research Foundation JUSOKEN
住総研

住総研だより　第7号

「住まい・まちの絵本展」ワークショップの様子(2～4頁参照)

最近の動き

●一般財団法人住総研の法人手続き

本年7月1日をもって「一般財団法人住総研」としての新たなスタートを切り，第一回理事会を8月29日に，第一回評議員会を9月14日に開催し，旧法人としての最終事業年度(2011年4月1日～6月30日)の決算を決議後，東京都への決算報告並びに確定した公益目的財産額の公益認定等委員会への提出により，旧法人の全ての業務が終了し，新たなる法人としての活動を開始した。

●絵本展開催

8月24日から9月2日までの土日を除く9日間，9月1日の防災の日をはさんで財団図書室及び事務所内で絵本展とワークショップを開催した。防災や住宅に関する絵本約100冊を用意し，子ども用の閲覧コーナも開設，周辺地域の方々へ公開した。また期間中にワークショップ(とびだすカードづくり，クルクル絵本づくり，マイMAPづくり，豆本づくり)を4回開催し3歳から10歳の子どもたちを中心に，期間中142名の方にご来場いただいた(2～4頁参照)。

●第32回住総研シンポジウム開催予定

今年度の重点テーマ「縮小社会における住まいのゆくえ」の第2回目シンポジウムとして，12月9日(金)建築会館ホールにて，大月敏雄准教授（東京大学大学院)の司会のもと，人口の減少・家族人員の縮小等，縮小社会における「家族像の変容と住まいのかたち」について各界の専門家に講演いただき，パネルディスカッションを行う(6頁参照)。引続き「縮小社会における住まいのゆくえ(第3回)-住まいを支える社会の担い手-」を2012年2月28日に開催予定である。

●住総研出版物のシリーズ化を検討開始

委員会活動の成果として出版される書籍について，『住総研の住まいのシリーズ読本(仮称)』として本の装丁などを統一して出版する事により，一般読者に住総研の一連の活動を分かりやすく認識していただき，住生活の向上のためのガイドブックとして利用していただければと考えている。これまでに住総研の委員会として活動していたコレクティブハウジングと現在活動中の高齢期居住の2つの出版についてシリーズ化を検討している。

目次:

イベントだより　2
「住まい・まち」の絵本展開催
第3回住教育授業づくり助成校決定

フォーラム・シンポジウム開催案内　6

シェア居住～団地STYLE～　7

「住まい・まちの絵本展」開催

建物入口付近に展示したディスプレイ

絵本展示の様子

8月24日から9月2日の間，住総研図書室で「住まい・まちの絵本展」を開催した。図書室所蔵の，住まい・まちに関する絵本約100冊をテーマ別に展示した。

テーマの分類は以下の10である。①家の内部の様子（間取り），②まちと自分のかかわり（コミュニティ），③まちの様子や暮らし方，④家族観および家族関係，⑤世界の住まい・暮らし，⑥高齢者の暮らし，⑦環境問題，⑧昔の住まいや暮らし，⑨建物の建て方やリフォーム，⑩災害。これらの分類に「家の中はどうなっているの？」のような子どもに問いかけるような見出しをつけて展示を行った。

絵本展の開催は，今回が初めてである。開催の目的の1つ目は近隣の方々に図書室の存在を知っていただき，利用を促進すること，2つ目は住教育活動の一環として，子どもたちに住まいやまちに関する絵本に触れてもらうことである。

会期中の8日間で142人が来場した。来場者の大半が当図書室の存在を知らなかったので，近隣の方々にある程度当図書室の存在をアピールできたと思われる。会期後も所蔵絵本の一部は別置して展示しているので興味をお持ちの方は是非ご来場いただきたい。

来場した子どもの年代は，未就学児から小学校低学年がほとんどであった。

来場者にアンケートを行った。絵本展を知ったきっかけは，街の掲示板のチラシが最も多く，次いで財団の外に飾ったディスプレイ（写真）で，この両者で5割を超え，近隣の方々へのPR方法としては，街の中で目に留まるような方法が有効であることが分かった。

絵本展に来場した親子連れ

来場者の住所は，当財団の所在地である世田谷区船橋が約7割を占めたが，中には深沢や成城といった当図書室から少し離れた場所からの来場者もあった。

展示の感想は概して好評で，85％が良かったと回答し，絵本の表紙が見やすい展示だった，くつろげた，などという回答があった。

今年3月には東日本大震災が起こり，防災に対する関心が高まっているが，今回の絵本展でも，防災や震災に関する絵本を展示したところ，閲覧する人が多く関心の高さを感じさせた。

今回の絵本展およびワークショップ開催にあたっては，中嶋明子氏（当財団理事，和洋女子大学教授），町田万里子氏（元当財団住教育フォーラム委員，元筑波大学附属小学校教諭），西川美枝子氏（小径の会代表）にアドバイス・ご協力いただきました。御礼申し上げます。

ワークショップ開催

絵本展の期間中，4回にわたりワークショップ（以下WS）を併催した。夏休みの後半という中で，3歳から11歳までの幅広い年齢層の子どもたちや母親，大人もあわせて92名の方々にご参加をいただいた。幼児は親子で，小学生はひとり或いは子ども同士のグループや親子での参加となっており，子どもの割合では3歳～5歳までの未就学児童は40%，6歳～8歳までの低学年児童は40%，9歳～12歳までの高学年児童は20%となった。付き添いの母親を除く成人の参加は3名で，近隣住民2名（孫に作ってあげたい，自分が作りたい）と近隣小学校教員1名（授業の教材として）であった。

内容については，時節柄，夏休みの自由研究の参考になりそうな内容を取り入れた。

講師は，各WSの内容に合致した絵本を例にとりながら，作り方や仕掛けの方法を具体的に説明し，講師補佐と財団スタッフは，各テーブルで作り方の指導を行った。

●1日目『とびだすカード』づくり

色画用紙を使ったカードに切り込みを入れ，切り込み部分を折り返してとびだしているように見せた仕掛けカードづくり

＜説明に使用した絵本＞

『メイシーちゃんのおうち』（偕成社）

開いた本がドールハウスに変身する立体絵本を使い，仕掛けの仕組みを説明

●2日目『クルクル絵本』づくり

牛乳パック２本に色紙を巻いて家に見立て，クルクル回転する絵本づくり

＜説明に使用した絵本＞

『100かいだてのいえ』（偕成社）

100階を目指してどんどん登っていく途中に様々な住人の部屋を通過していく絵本を使いストーリーづくりを説明

●3日目『マイＭＡＰ』づくり

※高学年児童対象

自分の家を中心によく遊びに行く場所などテーマを決めて地図に落とし込み，折りたたんで本のようにもなる「自分だけの地図」づくり

＜説明に使用した絵本＞

『げんくんのまちのおみせやさん』（徳間書店）

商店街のお店屋さんやそこで働く人々の暮らしを町へ探検にいく子どもの目線で描いた話を地図の題材にして説明

●4日目『豆本』づくり

手のひらサイズの豆本表紙づくり。表紙になる厚紙に好きな生地を貼りつけ，あらかじめ製本した本と合体させたもの

＜説明に使用した絵本＞

『おさらをあらわなかったおじさん』（岩波書店）

絵本展で展示している一番小さな絵本を豆本に見立て，作り方の工程を説明

「住まい・まちの絵本展」開催

WSの最後には，参加したひとりひとりに作品を発表してもらった。（小さいお子さんの場合は，母親と一緒に発表。）楽しい物語を真剣なまなざしで話してくれた5年生の女の子やひとりで黙々と色紙とはさみを器用に使って作っていた5歳の男の子など，様々な工夫が凝らされ，個性あふれた発表の場になった。

今回のWSでは，近隣の幼稚園・小学校に通う子どもたちや母親，住民の方々といった新しい交流のきっかけを作ることが出来，今後も地域とのコミュニケーションを活性化させる取組みを続けていきたい。

（文責：清水・風間）

住総研図書室所蔵　住まい・まちに関する主な絵本（2011年10月1日現在）

間取り			
ちか100かいだてのいえ	岩井俊雄	偕成社	2009
へんてこマンション	深見春夫	佼成出版社	2009
くすのきだんちは10かいだて	武鹿悦子/末崎茂樹	ひかりのくに	2007
コミュニティ			
おむすびさんちのたうえのひ	加岳井広	PHP研究所	2007
おとなりさん	きしらまゆこ/高畠純	BL出版	2006
たなかさんちのおひっこし	大島妙子	あかね書房	1993
おかえし	村山佳子/織茂恭子	福音館書店	1989
家の建て方・リフォーム			
バムとケロのもりのこや	島田ゆか	文渓堂	2011
5ひきのすてきなねずみ　ひっこしだいさくせん	たしろちさと	ぽるぷ出版	2010
ヘンリーいえをたてる	ジョンソン,D.B./ 今泉吉晴	福音館書店	2004
ドワーフじいさんのいえづくり	青山邦彦	フレーベル館	2003
あなたのいえわたしのいえ	加古里子	福音館書店	1969
震災・防災			
じしんのえほん	国崎信江/福田岩緒	ポプラ社	2006
津波!!：命を救った稲むらの火	小泉八雲/高村忠範	汐文社	2005
地震のことはなそう	せおまさし/藤田夏代子	自由国民社	2004
世界の住まい・暮らし			
ぼくのうちはゲル	ボロルマー,バーサンスレン/長野ヒデ子	石風社	2006
世界あちこちゆかいな家めぐり	小松義夫/西山晶	福音館書店	2004
世界の家とくらし	棚沢成明/津田櫨冬	住宅月間実行委員会	1991
昔の住まい・暮らし			
しらかわのみんか	島田アツヒト/川島宙次	小峰書店	2002
家のくらしのうつりかわり	本間昇/石井勉	岩崎書店	1996

第3回　住教育授業づくり助成校決まる　「住まい・まち学習」普及委員会

住総研は学校の授業で住教育を実践する教師を支援してプログラムやコンテンツの充実を図るとともに，その成果を広く公開することによって住教育の推進を図る「住教育授業づくり助成」を行っている。

9月16日開催の「住まい・まち学習」普及委員会にて，第3回目「住教育授業づくり助成」の対象校を下記の通り決定した。各校には授業企画へのアドバイスコメントを付して，「気づき，自ら考え，自ら実践する」住教育授業を期待している旨伝えた。

1. 三重県　　いなべ市立石榑小学校
2. 愛知県　　豊田市立土橋小学校
3. 北海道　　札幌市立幌南小学校
4. 東京都　　文京区駕籠町小学校
5. 神奈川県　小田原城北工業高等学校

今年度の募集校数は昨年度の応募校数8校を鑑み5校としたが，結果，応募校数6校と予想外の低調であった。これは，ゆとり教育から反転した学習指導要領の大幅な更新によるものと推察される。今年度は現場の教師が住教育に取り組みやすいように，委員会にて新しい学習指導要領を「住まい・まち学習」の観点で解説し各教科間の関連・授業の位置づけがわかるものを作成し，住総研HPで公開することとした。現在この「学習指導要領解説パネル」は作成中である。

なお，昨年度，第2回住教育授業づくりの助成をした8校については，東日本大震災で被災した茨城県の那珂小学校及び提出督促に応答がない三鷹市立北野小学校の2校を除いた6校から授業実施報告が提出された。委員会にて報告書の内容を審議し，6校とも報告を住まい・まち学習（住教育授業）の参考事例として住総研HPに掲載した。是非ご覧ください。

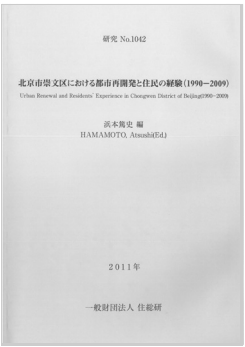
◎住まい・まち学習参考事例URL
http://www.jusoken.or.jp/diffuse/report.html

住まい・まち学習参考事例のHPの一例

新刊案内

※印刷助成出版物のお求めは丸善出版（株）TEL：03-3512-3256，http://pub.maruzen.co.jp/まで。
（2011年9月26日より電話番号が変更になっております。URLは従来と同じです。）
※「住総研レポート　すまいろん」のお求めは直接当財団まで。
（問合せ先　TEL：03-3484-5381，http://www.jusoken.or.jp/publish/form.html）

印刷助成出版物



北京市崇文区における都市再開発と住民の経験(1990-2009)
浜本篤史編

978-4-88331-058-6
A4版，89頁
本体価格：￥1,200

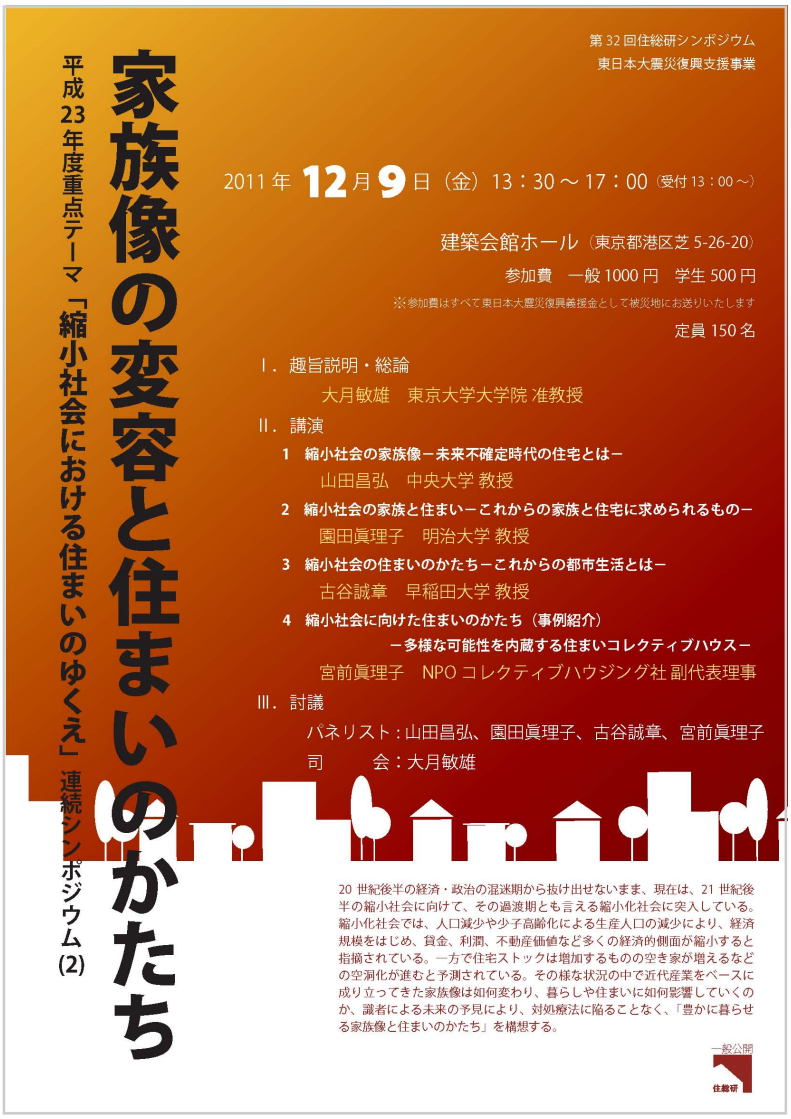
「住総研レポート　すまいろん」創刊号 好評発売中！！

特集：核心に迫る「住まいのサステイナビリティ」
B5版，120頁
価格：￥1,500（税込・送料別）
送料は2部まで￥80，3～4部は￥160。

第32回住総研シンポジウム

家族像の変容と住まいのかたち

-平成23年度重点テーマ「縮小都市における住まいのゆくえ」連続シンポジウム(2)-



●講演要旨

20世紀後半の経済・政治の混迷期から抜け出せないまま，現在は，21世紀後半の縮小社会に向けて，その過渡期とも言える縮小化社会に突入している。縮小化社会では，人口減少や少子高齢化による生産人口の減少により，経済規模をはじめ，貸金，利潤，不動産価値など多くの経済的側面に影響があると指摘されている。一方で住宅ストックは増加するため空き家が増えるなどの空洞化が進むと予測されている。その様な状況の中で近代産業をベースに成り立ってきた家族像は如何に変わり，暮らしや住まいに如何影響していくのか，識者による未来の予見により，対処療法に陥ることなく，「豊かに暮らせる家族像と住まいのかたち」を構想する。

●お申込

WEB　http://www.jusoken.or.jp/symposium/sympo_form.htmlかFAX（03-3484-5794）にて。

●詳細

http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo_32.htmlかTEL（03-3484-5381）へ。

市ヶ谷加賀町アパート　ストック再生活用の試み　その4

市ヶ谷加賀町アパートのシェア住居は，個室3室のユニットである。応募から入居まで，すべての部屋の入居者が同時に決まるということはほぼないが，平均的には1カ月～2カ月くらいで満室となっている。3人が揃うと居住者同士の交流のきっかけとなるよう，スタッフが呼びかけを行い1品持寄りのウェルカムパーティを開催する。みなさん仕事を持っているので，3人のスケジュールがなかなか合わないことが多く，すでに3人の生活が始まっているため，こちらから交流の場をつくらなくても良いのではないかとも思ってしまうが，シェア住居の生活の実態として，3人同時で食事をすることはほとんどないことと，運営をしていくにあたっても，居住者3人の暮らしの様子が聞けるいい機会であるので，必ず開催するようにしている。

このように通常は1ユニットのみのウェルカムパーティであるが，「他の部屋を見てみたい」，「他の部屋の居住者とも交流をしてみたい」という居住者からのリクエストもあり，10月初めの土曜日，全シェア住居を対象とした「ウェルカムパーティ＆見学ツアー」を開催した。土曜日の昼間にも関わらず，12名中10名の参加となった。

会場となったのは，居住者の申し出もあり，市ヶ谷加賀町アパートシェア住居第1号のnismu市ヶ谷加賀町である。10㎡程度の決して広くはないリビングに10名の30代前後の女性が集まるというのは，何とも華やかであった。また，1品持寄りをお願いしていたこともあり，手づくりの前菜や，惣菜，炊き込みご飯，デザート，お茶菓子などテーブルに乗りきらない品数となった。

乾杯のあとは，ごちそうを食べたい気持ちを我慢して，各シェア住居の見学ツアーを行った。それぞれの住居で工夫していること，3人で決めたルールなどを，各シェア住居の居住者自らが説明を行った。どのシェア住居でも，居住者の説明からシェア住居での暮らしを気に入っているということが伝わってきて，シェア住居を運営している住総研スタッフとしては，とてもうれしい時間であった。

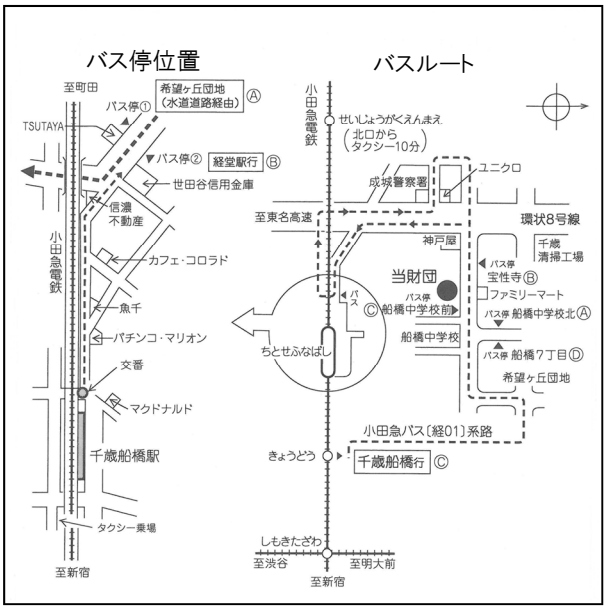
各シェア住居は，リビングの位置が2種類あるものの，基本的な備品やこちらから提示しているルールは同じである。それでも，共通備品費を工夫して必要なものを買いそろえたり，収納方法を上手く工夫したり，出したものはすぐにしまうということを徹底していたり，シェア住居でそれぞれの違いがあり，非常に盛り上がる，面白いツアーであった。多くの部屋で共通して存在しているルールとしては，「家にいる・いない」の印であった。あるシェア住居では，ぬいぐるみ3体を玄関に置いて，「ぬいぐるみが寝ている＝シェア住居にいます」であったり，個室のノブを利用して「キーホルダーがかかっている＝部屋にいます」としているという具合であった。家に帰ったときに，チェーンを締めていいのか，時間によってはどの程度の音を出していいのか，お互いに気を使って気持ちよく暮らすための大切な仕組みのようであった。

すべてのシェア住居を見て回ったのち，nismu市ヶ谷加賀町に戻り，ランチパーティとなった。趣味の話から，普段どのあたりで日用品を購入するか，どの駅を使っているか，また駅に行くにはどの道を通るといいか，などの情報交換まで，あっという間の3時間であった。

市谷加賀町アパートシェア住居は2011年10月に新たに2ユニットをオープンし6ユニットとなった。これまで，女性専用のシェア住居としていたが，6ユニット目は，男性専用のシェア住居とした。2011年11月現在，3室中2室が決まっている。ひつじ不動産北川氏によると，男性専用のシェア住居は，1000物件中3件程度と極めて少ない事例だそうだ。詳細は次号でお伝えする。お楽しみに。　　（文責：岡崎）

見学ツアーの様子

住総研は「住生活の向上に資する」多様な研究と実践を推進しています



住総研への交通アクセス

◎小田急線「千歳船橋駅」下車

バス乗場①より［歳25］希望ヶ丘団地（水道道路経由）行「船橋中学校北」下車
＊所要時間7分

バス乗場②より［経01］経堂行「宝性寺」下車＊所要時間10分

◎小田急線「経堂駅」下車

北口バス乗場②より［経01］千歳船橋駅行「船橋中学校前」下車＊所要時間12分

◎京王線「八幡山駅」下車

バス乗場（改札より約50m新宿寄）より［八01］希望ヶ丘団地循環
「船橋七丁目」下車＊所要時間10分

編集後記：

節電が求められた夏が過ぎ，秋から，そして街にはクリスマスのデコレーションが登場し，2011年も終わりに近づいております。7月に開催した第31回住総研シンポジウムに続き，12月には第32回住総研シンポジウムを開催いたします。（6頁参照）今回も，参加費はすべて東日本大震災義援金とします。

今回の震災でエネルギー政策や環境に対してさらに関心が高まりましたが，7月に当財団で創刊しました「住総研レポート　すまいろん」の創刊号は『すまいのサステイナビリティ』をテーマとしております。絶賛発売中です。（5頁参照）

また，震災を機に，コミュニティも注目されており，新たな住まい方の1つであるシェアハウスを当財団が始めてから1年が過ぎましたが，お陰様で好評につき問合せを多数頂いております。（7頁参照）

我々にとって決して忘れることのできない年となった2011年も1ヵ月ほどで終わりますが，2012年は良い年となることを祈ります。（K）

住総研だより　第7号

発行日　2011年11月30日
発行人　岡本　宏
発行所　一般財団法人住総研
〒156-0055　東京都世田谷区船橋4丁目29-8
電話　03(3484)5381
FAX　03(3484)5794
E-mail　jusoken@kpe.biglobe.ne.jp
URL　http://www.jusoken.or.jp/

住総研は「住まい」に関する研究助成事業を中心に，「住総研研究論文集」等を発刊，また住に関する専門図書室，シンポジウム・セミナーの公開開催など，社会のお役に立つような事業につとめています。

この「住総研だより」は，当財団の活動を研究者，市民の皆様により広くご理解いただくとともに，意見交流の場になることを願って配信します。ご利用よろしくお願いします。

「住総研だより」編集委員会